最近思うこと

公益委員　白尾國豊

私は，この３月に長年続けてきたサラリーマン生活に終止符を打ちました。これまでほったらかしにしていた自宅の整理整頓や文書の整理ができると思っていましたが，時間があるからいつでもできるという考えが先に立ち，なかなかはかどらない状況です。

そういう私が，仕事を辞め時間に余裕があるせいか，また,年齢的なことからなのか，良く分かりませんが，最近，ついつい色んなことを思います。今日は，それについて書いてみます。

まず，今さらながらですが，先人の教えというのは，含蓄があり，重要な教えだと思うということです。私の座右の銘的なものは，「為せば成る為さねば成らぬ何事も成らぬは人の為さぬなりけり」という言葉ですが，予備校生時代に列車の中で向かい合わせに座った年配の方から教えてもらったものです。それ以来，折に触れ思い浮かべながら物事に取り組んできましたが，由来には無頓着でした。言い伝えだろうと思っていましたが，最近，ふとしたきっかけで，上杉鷹山が家臣に示した言葉ということを知りました。以来，故事・ことわざを含め，語源・由来も調べながら，色んな言葉に触れています。

それから，小さいころの生活を頻繁に思い出します。いくつかあげてみます。例えば，自宅に電気はありましたが，水道やガスはありませんでした。電気があると言っても，裸電球のあかりと親戚のおじさんが組み立てたラジオがあるだけで，冷蔵庫，洗濯機があるわけではなく，もちろんテレビはありませんでした。

水道がありませんから，井戸水でしたけれども，台所や風呂の水汲みは子供たちの仕事でした。台所は土間になっていて，竈があり，母が薪を使って調理していました。風呂は五右衛門風呂で，裏の竹山の孟宗竹の古竹を取ってきて，風呂を沸かすのも子供たちの役割でした。

よくお使いに行かされました。今みたいにスーパーというようなものはなく，個人商店で，魚屋さん，肉屋さん，八百屋さんというふうに買い物に行きました。魚屋さんで言いますと，店頭には，サバとかアジの大きなものが１尾丸のままで並んでおり，さしみ用，煮つけ用，アラというように魚屋さんに捌いてもらって持って帰るものでした。

小学校時代は，漸く終戦後１０数年という頃でしたから，校舎は板壁１枚の木造だし，プールもない時代でした。給食はどうにか始まっていましたが，おかずとコッペパンと脱脂粉乳のミルクで，このミルクがまずく，先生に残さないようにと怒られながら飲むものでした。

学校から帰ると，高校生を筆頭に，小学生まで一団となって，人数が少なくてもできる三角ベースの野球や缶けり，コマ合戦などをして遊びました。暑いときは，近くの川で泳ぎました。

戦後間もないころで，本当に何もない少年時代を送りましたが，私たちの世代は，何もないところがスタートでした。過去は美化されるとも言いますが，スタートラインがそこでしたから，物的欲求や知的欲求を強く感じましたし，それを目指し努力もしました。そしてそうすることによりなにがしかの成果を得ることができました。努力すれば成果が得られたという，ある意味で幸せな時代を過ごすことができたと思っています。

脈絡もなく，書き並べてきましたが，自分でも，最近なぜこんなことを思い，考えるのか，良くわかりません。かなりの仕事人間だった私ですが，それは別な見方をすれば，注視すべき世の中の，あるいは，身の回りの現実から目を背けて仕事に逃げていただけかもしれませんし，今は，日々のこなさなければならない仕事が無くなり，現実に直面せざるを得なくなり，また，逃げ先を捜しているところかもしれません。

現実を正面から受け止め，将来価値ある想い出として美化できるか，新たな逃げ道に逃げ込むか，それとも止揚できるのか，それが問われるのがこれからの毎日だと，現在自分を奮い立たせているところです。